

## 歴史を辿って

牧野 直子

### 赤穂から龍野へ

4月に夫と以前から行きたかった赤穂と龍野に行きました。赤穂では赤穂城や赤穂大石神社、大石内蔵助の屋敷などを巡り、赤穂大橋を渡って瀬戸内海の眺めが素晴らしい宿に泊まりました。



翌日は姫新線やバスを乗り継いで、「赤とんぼ」の作詞で有名な三木露風のふるさと、「龍野」のまちを散策。駅や信号待ちの音楽は「赤とんぼ」が流れていました。

「♪夕焼け小焼けの赤とんぼ♪」の銅像が川岸に、車のドアにも歌詞が書かれているのを見て「赤とんぼのまちだ」と思いました。

赤穂は「赤穂塩」、龍野は「醤油の郷」として知られており、歴史博物館や大正ロマン館などもあります。また今度は仲間とゆっくり訪ねてみたいです。

### 丹波篠山へ

翌月は丹波篠山に行きました。近くても宿泊してゆっくりまちを見て回ったのは初めてでした。ここもやはり、篠山城下を中心に武家屋敷や資料館などがあり、お城の近くに「田園交響ホール」があります。議員時代に、当時の館長さんと「文化ホールがまちをつくる」という全国組織で知り合いになったご縁で、みんなと「まちづくり」の見学に来たことを思い出しました。今は彼も退職し、地元で農業に専念しているようです。



たんば田園交響ホール

篠山城には大書院があり、その中ではかつての篠山城の情報が展示されていました。かつて、徳川家康が豊臣秀吉の築いた大阪城を視野に篠山にお城を築いたそうです。それらを見て回りながら、歴史を感じました。今回はすべて公共交通機関、地元の路線バスやコミュニティバスを使っの面白い旅でした。

### 箕面へ戻って

箕面に戻り、コミュニティバス(ゆずるバス)に乗って郷土資料館に行きました。「生誕350年 萱野三平展」を観て彼の存在にあらためて想像をめぐらしました。

浅野内匠頭が吉良上野介を斬りつけて切腹したことを知らせるため、江戸から赤穂まで早籠で西国街道を通っているときに箕面の萱野村で母の葬儀に出会い、それでも降りることなく赤穂に急ぐときの彼の心境に想いを巡らします。電報や電話すらない時代です。きっと今の若い人には理解できないでしょう。

そして彼は父親と家臣としての思いの板ばさみになり、27歳の若さで自害するのです。箕面の萱野には彼のお墓があります。



### 箕面はカルピスの発明者「三島海雲」の郷

萱野三平の記念館「涓泉亭」のすぐそばのお寺「教学寺」はカルピスの創始者「三島海雲」の生まれ育ったところです。彼は体が弱かったそうです。蒙古(今のモンゴル)に渡って酸乳に関心を持ち、乳酸菌飲料「カルピス」を創り出します。そして日本に帰ってから、関東大震災のときにはそのカルピスを被災者にふるまったということを今回、私は初めて知りました。

タイムリーにも7月6日(日)、郷土資料館で「カルピスの誕生日」という催しがあり、教学寺の塚田住職のお話や「人と本を紡ぐ会」の紙芝居を見してきました。七夕の7日がカルピスが生まれた日だそうです。



「三島海雲記念財団」より

箕面には43年住んでいますが、まだまだ知らないことがあることでしょう。箕面にも歴史が感じられる場所があります。もっと歴史を通して認識を深めていきたいものです。



郷土資料館